

いつもお世話になっております。ファクスお借りして恐縮です。ご発注よろしくお願いたします。
書肆心水 FAX 03-6677-0682

天皇・憲法第九条

高柳賢三

九条の異常性を直視する第三の道

大陸法的解釈か英米法的解釈か 「ガラパゴス憲法学」を批判する篠田英朗『ほんとうの憲法』（ちくま新書2017）『憲法学の病』（新潮新書2019）の論点

改憲論議における不可欠かつ第一級の知見でありながら、長くかえりみられてこなかった「日本国憲法と大陸法／英米法問題」の原点の書。九条幣原首相発案説の論拠として広く知られる本書の議論は、近代日本法学の主流である大陸法型の解釈と英米法型の解釈の対立の問題を経て、そもそも憲法という法文はいかに解釈されるべきものかという問いに及ぶ。

「天皇制に限らず、一般に新憲法の真意を十分に把握しないため不必要な改憲論を惹起していることが憲法他の部分についても相当にあるように見受けられる。これはアングロ・サクソンの法律家によって起草された日本国憲法を、旧ドイツ解釈法学の条文中心主義に従って解釈したためであることが相当多いようである。それらの解釈は、いわゆる“英文をドイツ文法で解釈する”ための誤った解釈ともいえる。」（本書より）

高柳賢三（たかやなぎ・けんぞう）英米法学者、法学博士。1887年生、1967歿。東京帝国大学法科大学卒業。同大学助教授を経て、1921年東京帝国大学法学部教授、1948年退官（名誉教授）。のち成蹊大学学長（名誉教授）。東京裁判で弁護人を務め、貴族院議員として新憲法案の審議に参加。憲法調査会会長、学士院会員、米国学士院会員、国際比較法学会正会員、国際仲裁裁判所裁判官。主要著訳書『英米法講義』（第1巻『英米法源理論』第2巻『英国公法の理論』第3巻『司法権の優位』第4巻『英米法の基礎』）、『極東裁判と国際法』、ロスコー・パウンド『法と道徳』（共訳）、ロスコー・パウンド『法律史観』ほか。

第1章	象徴の元首・天皇
第2章	英米人のみた天皇制
第3章	「憲法第九条」—— 成立経過と解釈
第4章	完全非武装
第5章	人権の司法的保障 —— 法治から法支配へ
第6章	日本国憲法の性格
第7章	日本国憲法の解釈
第8章	違憲審査制の運用 —— 砂川判決を中心として
第9章	選挙民権と政党政治の肅正
第10章	改憲問題に対する米加学者の見解
第11章	憲法と政治

新刊 注文取扱返条付（清藤）	取次番線印	天皇・憲法第九条 高柳賢三著 ISBN978-4-906917-94-5 C0032 A5判上製 288頁 本体6300円＋税	8月下旬刊
	お名前		

ご注文は JRC へ 03-3294-2177

すべての取次への出荷が可能です。返品は長期にお受け致します。（了解者 JRC 後藤）